協議事項

協議資料１

１　こどもの相談室 親子グループの改編

(1)　経緯

１）くるみグループについて

令和５年度に入りコロナ体制が解除され定員数を元に戻したが，現在まで参加者数が１回３～６組と定員割れが続いている。コロナ禍以前は，夏頃になると幼稚園の面接が近くなり児への対応の仕方を主訴に待機者数が増えたり，秋以降は幼稚園面接に落選したことで相談が増える傾向にあったが，令和５年度はその傾向は見られず定員割れが続いている。（協議資料１－１（１）の「現在の待機期間」参照）

その背景に，市内や近隣市幼稚園の満３歳児クラス（４年保育）やプレ保育（２歳児クラス）の増設（協議資料１－１（２）参照），また市内保育園の増設に伴い２歳児クラスの空きもみられるようになっており，更に国の幼児教育・保育の無償化事業も始まったことや女性の社会参加の推進に伴い低年齢から子どもを保育園や幼稚園に入園させる家庭が増えていることが考えられる。

２）どんぐりグループについて

グループ終了後の方針は令和２年度から発達センターを紹介する割合が半数となっている。これはマロングループ終了後の方針と同割合である。どんぐりグループ参加者は発達が気になる子の対応に困っている保護者が増えている傾向にある。近年のグループ運営は，どんぐりグループの目的の一つであった親子で遊ぶ楽しさの体験を得るということより，保護者の心理的負担の軽減や子どもの発達の見極めることが中心となってきた。

(2)　来年度の体制について

くるみグループについては来年度廃止し，３歳児健診後フォローとして必要な親子に対して経過観察健診や発達健診，その他，個別に心理相談を実施すると共に，地区担当保健師がフォローしながら児の発達を見極め，保護者の心理的負担の軽減や育児力の底上げを図る。

どんぐり・マロングループについては，保護者の心理的負担の軽減・育児力の底上げ・児の発達の見極めを目的にどんぐり・マロングループを統合し，運営する。（運営案は協議資料１－１（１）参照）マロングループ保護者の心配事は「ことばの遅れ」が最上位となっており，言語聴覚士への相談ニーズが高いことから，新たなグループには言語聴覚士を配置する。また，プレ保育に通っている親子も多いため曜日が選べるよう週２回別の曜日で運営する。